

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- すべての学年において2観点で目標値、区平均、全国平均を上回っている。特に、「思考・判断・表現」の観点においては、大幅に上回っている。これは、自力解決の時間を確保し、互いの考えを伝え深め合う問題解決型の授業を継続していることによるものと考えられる。
- 「変化と関係」の領域は、非常に高い正答率である。これもまた、問題解決型の授業や、児童が意欲的に繰り返し学習をしている成果が出ていると考えられる。

(2) 課題

- 整数のたし算の繰り上がりの理解が十分ではない児童が見られる。
- 分数で数直線上に示された数値の読み取りができていない児童が見られる。
- 「知識・技能」の観点は、目標値を上回っているとはいえ、2観点の中では低い値となっている。既習事項を振り返ったり、習熟の時間を十分確保したりする必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った。 ○…目標値と同程度。 △…目標値を下回った。

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	◎	
第6学年	◎	◎	◎

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値より、大幅に上回っている。区平均、全国平均を大きく上回っている。	・目標値より、大幅に上回っている。区平均を大きく上回っている。全国平均を大幅に上回っている。	

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値より、大幅に上回っている。区平均、全国平均を大きく上回っている。	・目標値より、大幅に上回っている。区平均を大きく上回っている。全国平均を大幅に上回っている。	

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・既習の学習内容をより定着できるよう、計算スキルやプリントなどを活用する。 (指導計画・学習習慣) ・長さやかさなど、身の回りの事柄による体験を通して、単位を適切に選択できるようにする。 (授業構成) ・計算カードやタブレット端末での学習を実施し、正解まで取り組ませ、問題数を増やしたり、間違いをそのままにしたりしないことで学習を定着させる。 (学習習慣) ・量の増減を理解させるために具体物を的確に操作できるようにする。 (学習習慣・授業構成)	・ブロックなどを操作したり、図を用いて考えさせたりして、理解を促す。 (授業構成) ・身の回りにある具体物を探したり、使ったりする活動を取り入れたたりして、理解を促す。 (授業構成) ・立式がしやすいように、経験や生活と結び付けた提示の仕方を工夫する。 (授業構成) ・考えたことを説明したり、友達との対話的な学びによって、理解を深めたりして、問題場面を解決できるようにする。 (授業構成) ・具体物から半具体物、数量に考えを移行することで、スムーズに思考できるようにする。 (授業構成) ・日常での場面と結びつけながら立式ができるよう半具体物で表したり、経験と結び付けたりするように、提示の仕方を工夫する。 (授業構成) ・キーワードとなる言葉に印をつけるなど、文章問題の読み解きが理解できるようにする。 (授業構成) ・振り返りを行い、学習したことを自分の言葉でまとめて、十分な理解の定着をねらう。 (授業構成)	・タブレット端末での学習を取り入れる。繰り返し問題に取り組んだり、すぐに正誤を確かめたりすることで、学習問題に主体的に取り組めるようする。 (授業構成) ・長さやかさの学習では活動を通して感覚を養い、楽しんで活動できるようにする。 (指導計画・授業構成) ・デジタル教科書を積極的に活用して、苦手意識のある児童たちも関心をもてるように工夫する。 (授業構成) ・具体物や図などを用いて考えた過程を通して、日常生活に生かそうとする良さや楽しさを実感させる。 (指導計画・授業構成) ・量の学習では活動を通して、量感覚を養い、楽しんで活動できるようにする。 (指導計画・授業構成) ・振り返りを行い、次の学習意欲へつなげるようにする。 (授業構成)

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・学習の終わりに計算スキルの問題に取り組むことで、学習内容の理解と定着を図る。 (指導計画・授業構成) ・筆算の学習では、繰り上りや繰り下がりの数を書き込ませることで、正確に計算をすることができるように指導する。 (指導計画・学習習慣) ・図の読み取りができるよう、ICTを活用して具体的に指導する。 (授業構成) ・正確に問題内容を把握して答えを導き出すために、問題文を正しく読み、必要な数値情報を把握するよう指導する。 (指導計画・授業構成) ・数の相対的な大きさについて理解したり、計算ミスを少なくしたりできるようにドリルパークなどを活用し、繰り返し学習を継続して行う。 (指導計画・学習習慣)	・考えを広げ、新たな事柄に気付けるように、考えを伝え合ったり検討したりする時間を確保する。 (指導計画・授業構成) ・自分の考えを説明する際には、既習事項や算数用語を用いて、分かりやすく簡潔に説明できるよう指導する。 (指導計画・授業構成) ・ICTや具体物を使用し、場面設定を視覚的に把握できるようにすることで、問題文の読み取りができるよう指導する。 (授業構成) ・データを正しく読み取り、それを活用できるようにする力を身に付ける指導をしていく。 (指導計画・授業構成)	・ICTを活用して視覚的に理解できるようにすることで、学習の見通しをもてるようにする。 (指導計画・授業構成) ・児童が主体的に学習に取り組み、達成感を味わえるように、課題設定や問題提示の仕方を工夫する。また、見通しをもって適切な考えや解決方法に導いていくよう指導する。 (指導計画・授業構成) ・日常生活との関連を図りながら、体感させたり、想起させたりしながら、時刻や時間、数や量などの感覚をもたせられるよう授業を工夫する。 (指導計画・授業構成)

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・分度器やコンパスなどの用具を正しく扱うことができるように習熟を図る時間を設ける。 (指導計画・授業構成) ・児童が系統立てて理解できるように、単元に関わる既習事項の確認や、本単元やその先の見通しをもたせられるようにする。 (指導計画・授業構成)	・統合的、発展的に考える力を育てるために、児童に複数の事象を比較させたり、既習事項と関連付けて思考させたりする場面を設定する。また、発問の工夫によって、児童の思考や気付きを引き出すようにする。 (指導方法・発問) ・論理的思考力や豊かな表現	・間違いを恐れず、粘り強く素直に自分の考えをもつ児童に育てるために、結果主義ではなく児童一人一人が考えた過程を大切にした指導を行う。 (指導観) ・学びに向かう力を育てるために、問題との出合わせ方を工夫する。児童の実態や日常生活と密接に関わる

・問題文から正しく立式できる力を育てるために、児童が問題場面の数量の関係を数直線図や4マス関係表などに置き換える活動を意図的に取り入れる。また、その有用感を児童自身が実感し、問題解決で活用できるようにする。 (指導方法)	力を育てるために、自分の考えを文章、式、図、表などを用いて表現し、対話を通して他者に筋道立てて説明する活動を取り入れる。 (指導方法・授業構成)	問題を提示し、自分事として考えられるようにする。また、児童の困り感を出発点としてめあてを掲げ、全員で学び合う授業をつくる。 (指導方法・授業構成)
--	--	---